

○議長（森 弘秋君） 2番 良峯喜久男君。

○2番（良峯喜久男君） 2番良峯です。マスクを取って質問をさせていただきます。

令和4年8月31日に舟橋村パワーハラスメント事案に関する第三者委員会からの調査報告書の提出を受けて、概要版、公表版が9月6日に舟橋村ホームページで公表され、全国ネットワークでのテレビ報道、そして新聞掲載で、日本一小さい村・舟橋村が悪い意味で報道されていることは残念でなりません。ですが、村民が安全で安心して暮らせる舟橋村づくりをしていかなければなりません。

そこで、今回私からは、2025年には国民の3割が後期高齢者となる超高齢化社会を迎えると言われている事案につきまして、質問をさせていただきます。

現在日本の人口は2010年を境に減少を続けており、2025年には、1947年から1949年までの間に生まれた、いわゆる団塊の世代が後期高齢者、75歳以上となり、65歳以上74歳未満の前期高齢者を含めた高齢者の割合が全人口の3割を超える超高齢化社会を迎えると言われております。

舟橋村におきましては、1950年から1990年にかけて1,400人前後で推移をしていた人口が、住宅地開発を進めた1989年以降急速に増加し、2010年には2,967人、本年9月1日現在は3,282名となり、高齢化率も約2割で推移をしております。

2020年の統計が取れる全国1,738の市区町村の中で、上から数えて1,707位と高齢者人口の割合が比較的低いとされております。その要因としては、一部待機児童の問題を除けば、第1期舟橋村総合戦略、第2期舟橋村総合戦略のコンセプト「子育て共助のまちづくり」の成果と考えます。

がしかし、2025年以降、高齢化率も右肩上がりです。推移をすることが予測されており、超高齢化社会を迎えることによる2025年問題は、当村におきましても、雇用や医療、福祉といった様々な分野へ多大な影響を及ぼすことが予想されており、これまでの定例会の一般質問でも、高齢者に係る問題が多く質問をされております。空き家対策について、外出支援交通対策問題、高齢者の健康増進、生きがいの場づくり、そして医療と、様々な視点から質問がされております。

そこで、まず空き家対策ですが、令和3年8月調査から、再調査がされているのか。空き家情報バンクへの登録はあるのか。所有者との連絡は取れているのかお聞かせください。

敷地内からの樹木の枝葉が隣の敷地に入り込む等、また道路内にはみ出して交通の妨げになるとの苦情も聞かれます。所有者ときちんと連絡を取っていただき、苦情案件につきましても、早急の対応に努めていただきたいと思います。

次に、交通弱者外出支援ですが、過去にデマンド交通システムの導入、公共交通機関の交通費の補助、村営小型バスの導入等の質問が幾度かされましたが、サービスの検討をするとの答弁にとどまり、なかなか前に進まない状況にあると考えます。

令和3年に65歳以上の全住民に外出支援に関するアンケート調査が実施され、3年度末までに分析結果と対策の方向性を示す予定と答弁をされていましたが、その分析結果と対策についてお聞かせください。

次に、高齢者の健康増進や生きがいの場づくりについてですが、現在高齢者が参加できる団体活動として、舟橋村シルバー人材センターと舟橋寿会の2団体です。若者も参加する野球やビーチバレーに参加されている方もおられますが、まれです。

近年舟橋村では、高齢者が参加しやすいユニカールやカローリング、そして参加人口が舟橋村でも増えつつあるパークゴルフ等の大会や体験会が開催されております。

村として、どのような支援ができるか。〇〇村長杯、〇〇議長杯とした大会を開催されてはと思います。

令和3年12月定例会で森議員のパークゴルフ場の設置についての質問に対して、近隣のパークゴルフ場の利用をとの村長の答弁がありました。舟橋村に愛好会、同好会ができたとしても、パークゴルフ場がなければ各種大会に参加できません。また、舟橋村の人は経験が少なく、技術に差があり、近隣のパークゴルフ場を使用するにも気が引けるところがあります。パークゴルフ場の設置に向けて前向きに検討をお願いしたいと思います。

最後に、医療についてですが、古越村長は6月定例会の提案理由説明、そして前原議員の一般質問での無医村解消について、富山市で開業されている先生から当村で開業したいとの要望を受けて現在交渉中であり、今後詳細が決まるたびに議会に丁寧に説明すると答弁をされております。その後、具体的になったことがあれば、説明をお願いします。

舟橋クリニックの開業に向けて、「昭和59年12月24日告示第29号 舟橋村無医村解消のための助成金交付要綱」が制定され、誘致料と助成金が公金を使って支払われております。今回も誘致料や助成金等を考えておられるのかお聞きします。

また、誘致における今後の対応についてですが、下調べ作業の核となる医療機関誘致推進チームを設置して、医療機関誘致に対する意識調査、将来の医療の在り方の検討から、仮称「舟橋村医療ビジョン」の策定も必要で、調査等の結果を基に学識・有識者で誘致の進め方等を協議してもらい医療機関誘致促進協議会を設置されて進められてはとの意見もありますが、どのように進めていかれるのかをお聞かせください。

私からの質問は以上です。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 田中 勝君。

○生活環境課長（田中 勝君） 2番良峯議員の、空き家や空き地の現状についてのご質問にお答えいたします。

本村では、毎年8月頃に年1回の現地調査を実施しており、空き家の管理状況を把握するとともに、管理が行き届いていない空き家に対しては、一部ヒアリング調査を行っております。

不動産会社（法人）が管理する物件については全てを把握しておりませんが、個人が管理する物件につきましては、空き家に関する台帳を作成しており、現在は22件存在しますが、いずれも所有者がいる状況であります。

現地調査の際には、空き家の管理状況と併せて、庭や樹木の管理状況を把握し、建物の破損及び樹木管理が行き届いていない状況があった時点で所有者に連絡し、改善の通知（勧告）を行い、後日確認も行っております。

また、所有者とのヒアリングでは、空き家の活用方法に関する意向を確認し、必要に応じて空き家バンクへの登録を進めておりますが、売却意思はあるものの、相続手続が煩雑であることから相続登記を行っておらず、また空き家バンクへの未登録状況下にあります。

これまでの空き家バンクに対する取組といたしましては、平成24年度に舟橋村空き家情報バンク設置要綱を制定し、これまで5件の登録があり、直近では令和3年に1件申請がありましたが、いずれも全て売却済みとなっております。

そのほか、平成28年度では、老朽空き家の取壊しを目的とする舟橋村老朽化危険空き家等除去支援事業補助金の活用事例が1件あり、老朽空き家の取壊しとともに売買されたケースもあります。

今後はさらに空き家の増加が予想されることから、既存の制度を生かしつつ、効果的な対応を検討してまいりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

続きまして、良峯議員の、高齢者の健康増進や生きがいの場づくりについての質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、12月議会でパークゴルフ場の整備につきましては、近隣には水橋地区に、そして上市町、立山町にもありますので、そちらを利用いただければ交流の場ももっと広がるものと思っておりますと、村長から答弁させていただきました。今のところ、その考えに変化はございません。

ただ、大会等の開催につきましては、ニーズを把握した上で判断したいと考えております。

議員はご存じかと思いますが、社会福祉協議会関連の高齢者のための健康増進・通いの場づくりとして、舟橋地区等村内6か所でいきいき百歳体操を実施しております。役場内で5月から毎月1回開催しておりますすまいる広場、これは65歳以上の高齢者を対象にした運動やレクリエーションを取り入れ、介護予防に努めております。村内全域各公民館で、世代に関係なく、いきいきサロン活動を開催しております。

また、舟橋文化スポーツクラブ「バンドリー」や老人クラブの協力の下、異世代スポーツ大会、高齢者スポーツ大会の開催を予定しております。それと、老人クラブの協力の下、コロナ禍でも参加しやすく、また運動が苦手な方もできるゲーム（eスポーツ）の体験会も予定しております。

議員ご指摘のとおり、西暦2025年以降、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、我が国は超高齢化社会になりますが、元気な高齢者を一人でも多くする取組に対し関係団体と協力してまいりますので、議員のご理解を賜りますようお願いを申し上げます、答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 私のほうからは、交通弱者外出支援のご質問にお答えをいたします。

良峯議員ご指摘の調査は、令和3年度に行いました外出支援に関するアンケートでありまして、高齢者が買物や通院に外出する際の交通手段の状況やニーズを把握することを目的に、65歳以上の施設入所者を除く565名の村民を対象に行ったものであります。466名から回答を得ており、分析を民間業者に委託し、昨年度末、令和3年度末までに分析結果と施策の方向性を示す予定としておりました。

分析状況につきましては、昨年12月の定例会一般質問におきまして、幾つかの分析

の要点と村の方向性を説明させていただいておりますが、3月末に作成いたしました報告書におきましても、分析結果、方向性に変更はございません。

繰り返しになりますが、分析内容を再度説明させていただきます。買物や通院に外出する際の交通手段の状況については、幾つか要点がございます。

まず、買物については、半数程度の方が週一、二回、車でスーパー等に行っておられますが、4分の1程度の方が不自由を感じておられ、高齢になるほど不自由に感じている方は増える状況でございます。

不自由を感じる理由として最も多かったのが、近くに店がない、これが34.4%、電車以外の交通機関がない、これが18.6%、大きい物や重い物が買えない、15.4%でございました。

次に通院については、約77%の方が定期的に通院しておられ、自分で車を運転していく方がほとんどです。今後、自分が運転できなくなったときに医療機関を変更してもよいという方は、条件次第で変更してもよいという方を含めると50%程度おられ、年代別では60代の割合が高くなっています。

バス等の移動手段があったら利用したいかとの質問には、すぐに利用したいという方が6%、いずれ必要になったら利用したいという方が65%を占めており、60代、70代の方が多い状況でありました。

調査の分析全体から見ていくと、買物、通院への外出に関して、現時点で不自由を感じている方は25%程度いらっしゃいます。今不自由でなくても、高齢化が進展すれば年々不自由に感じる方の数は確実に増えていくことが予想されます。いずれバス等の公共交通機関を利用した取組が必要となってしまうものと考えております。

以上のような状況から、報告書では、総合病院として一定の診療科を有し、中新川郡の在宅医療の拠点となっているかみいち総合病院までの交通手段を確保し、病院での受診に合わせ、スーパー等に立ち寄ることができるような循環型のシステム構築を検討すると結論づけられております。

また、昨年度は、外出支援に関するアンケートを補完する調査といたしまして、65歳以上のひとり暮らしの方等148名にヒアリング等を行いました。その結果、65歳以上のひとり暮らしの方61人のうち4人、介護保険認定者47人のうち6人、75歳以上のみの世帯の方40人のうち7人、計17人が今既に外出が困難であるとの回答がありました。

この結果を受け、役場内で検討しましたところ、介護保険制度だけでは対応できない部分も含めて、今既に外出が困難な方への対応策と、今後外出が困難になる方が増えてくる5年から10年後を見据えた外出支援施策を同時に展開していく必要があると認識したところでございます。

以上のような昨年度に行ったこれらの取組を踏まえて、今年度は、地元自動車業者から自治体における有償ボランティアドライバーによる外出支援の提案を受け、先進事例紹介や助言を受けながら、外出支援の検討を進めてきております。

具体的な先進事例を申し上げますと、公共交通空白地であります福井県永平寺町がボランティアドライバーによる自家用有償旅客運送の導入を実施し、自宅から目的地まで1日8便の定時運行をし、住民助け合いによる地域の運行を進めている事例。また、氷見市におきましては、住民主体のバスの運行について紹介を受けたところでございます。

現時点では、様々な情報収集に取り組んでいるところであり、まだ舟橋村としての具体策をお示しする段階にはございません。

今後の取組といたしまして、9月末からは富山県高齢福祉課の地域包括ケアシステム総合的伴走支援展開事業に参加し、全国移動サービスネットワークや、先進地域の社会福祉協議会などの有識者から研修及び現地支援を受け、舟橋村社会福祉協議会、役場総務課、生活環境課と協力し、今既に外出が困難である方への対応と今後外出が困難になる方への対応を検討してまいります。

また、外出支援の側面だけでなく、他者との交流、見守りを目的とした人材確保、運転ボランティアですね。これらの育成・循環についても、検討を進めてまいりたいと考えております。

今後、医療機関の開業など舟橋村を取り巻く社会環境が大きく変化する可能性がございます。これらの社会環境の変化を注視しながら、本村の実情に即した持続可能なシステムの構築を検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。答弁といたします。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 私のほうから、医療についてのご質問にお答えをいたします。

去る8月24日に開きました医療関係者と建築関係者と役場当局による会議の報告によりますと、今現在、地権者の同意を得て建物を建てていただく予定の業者と医院の先生との間で建築物の基本図面の作成に取り組んでいる状況で、その後、詳細な図面打合

せへと続いていくと聞いております。

議員ご提案の医療機関誘致推進チームや医療機関誘致促進協議会につきましては、設置する予定はございません。これまでとおり、医療関係者と建築関係者と役場との3者で協議を続けてまいりたいと考えております。

議会に対しては、早ければ12月議会か3月議会で、ある程度の方向性についてお話しできると思っております。そのときは医院に対しての補助金等も具体的に提案できると思っております。

ただ、相手方がある事業でございますので、全てを公表することはできません。大変申し訳ございませんが、議員のご理解を賜りますようよろしくお願いを申し上げまして、答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 良峯喜久男君。

○2番（良峯喜久男君） 医院の件ですが、さっきも言いましたけども、昭和59年に舟橋村無医村解消のための助成金交付要綱が制定されており、そのときは誘致料と助成金が、公金を使われて支払われております。

それについて、今回はどうかということをお尋ねしましたが、答弁がなかったので、再度お願いいたします。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 良峯議員さんの再質問でございますが、補助金の要綱が定まっているので、そのことについてどうなのかということでございますが、まだ具体的なことが決まっておられませんので、そのところまで行っていないというのが状況でございますので、ご理解を賜りますよう、よろしくお願いをいたします。